

令和3年産米の秋田県の「生産の目安」について

令和2年11月6日
秋田県農業再生協議会

秋田県全体の令和3年産主食用米の「生産の目安」について、令和2年11月6日に開催した当協議会臨時総会において、次のとおり決定しました。

令和3年産の秋田県の「生産の目安」390,000 トン
(面積換算値67,826 ha)

令和3年産米の県の「生産の目安」について

令和2年11月6日

1 算定方法

本県の「生産の目安」は、「全国生産量と県産米シェアから算出した数値」と「需給動向と適正在庫量から算出した数値」の中間値を基本とし、必要に応じて「直近の販売状況を踏まえた補正」を行って設定することとする。

2 算定に用いる数値

(1) 全国需要量と県産米シェア

年産米	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	7中5平均	R元-H30
全国(トン)	7,866,000	7,825,000	7,662,000	7,540,000	7,396,000	7,346,000	7,143,500	-	-202,500
秋田県(トン)	440,402	412,193	470,654	413,615	399,388	436,760	433,456	-	-3,304
県産米シェア(%)	5.5988	5.2676	6.1427	5.4856	5.4001	5.9455	6.0678	5.6996	0.1223
平均値採用	○	×	×	○	○	○	○		

出典: 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針

(2) 適正在庫量

6月末の県産米の適正在庫量は、国が「安定供給が可能な水準」とする全国在庫量180万トンに県産米シェアを乗じた10万トンを下限とし、県産米の価格が安定すると見込まれる12万トンを上限として、この範囲にある場合は、在庫量を維持できるように「生産の目安」を設定し、適正範囲を外れている場合は、期末在庫量が適正範囲内となるように「生産の目安」を設定する。

(3) 国の需要見通し (国によるトレンド推計: 令和2年11月基本指針より)

① 平成8/9年～令和元/2年までの1人当たり消費量を算出

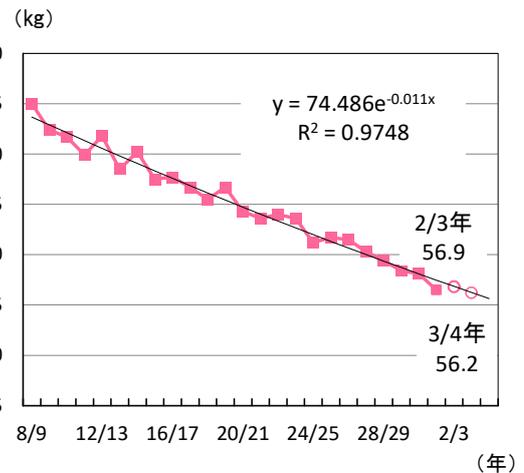
年	需要実績 a	人口 b	1人当たり消費量 a/b
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4

24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	126,933	59.4
29/30	739.6	126,706	58.4
30/元	734.6	126,443	58.1
元/2	714.4	126,167	56.6

② 令和2/3年及び令和3/4の1人当たり消費量(推計値)を算出

年	x	1人当たり消費量 (y)
		kg
8/9	1	75.0
9/10	2	72.4

24/25	17	61.2
25/26	18	61.7
26/27	19	61.5
27/28	20	60.3
28/29	21	59.4
29/30	22	58.4
30/元	23	58.1
元/2	24	56.6
2/3	25	56.9 (推計値)
3/4	26	56.2 (推計値)



※ 人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値。

③ 令和2/3年及び令和3/4年の1人当たり消費量(推計値)に令和2年及び令和3年の人口(推計値)を乗じて需要見通しを算出

		2/3年	3/4年
1人当たり消費量(推計値)	a	56.9kg	56.2kg
人口(推計値)	b	125,880千人	125,389千人
需要見通し	$c = a \times b$	715.8万トン	705.3万トン
特別な要因による需要減	d	▲5万トン	-
		↓	
需要量	$e = c + d$	711万～716万トン	705万トン

注1: 人口(推計値)は、令和2年においては「人口推計(総務省、令和2年10月20日公表)」の総人口(令和2年10月1日現在(概算値)。以下「令和2年10月現在人口」という。)、令和3年においては令和2年10月現在人口に、「日本の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所平成29年4月10日公表)」の令和2年10月1日から令和3年10月1日までの総人口(出生中位・死亡中位推計)の減少率を乗じて算出した値。

注2: 図中の需要見通しは、1人当たり消費量(推計値)の実数に、人口(推計値)の実数を乗じて算出した値のため、図中の1人当たり消費量(推計値)(小数点第2位を四捨五入)に人口(推計値)(小数点第1位を四捨五入)を乗じて算出した値とは一致しない。

(4) 県産米の需要見通し

2年産米は、元年産米需要量に、国の元年産米と2年産米の需要見通しの減少率を乗じて算出した。

3年産米は、2年産米需要見通しに、国の2年産米と3年産米の需要見通しの減少率を乗じて算出した。

	元/2年	2/3年 (減少率)	3/4年 (減少率)
国需要見通し	727.0万トン	715.8万トン (98.5%)	705.3万トン (98.5%)
県需要見通し	433,456トン	426,778トン	420,518トン

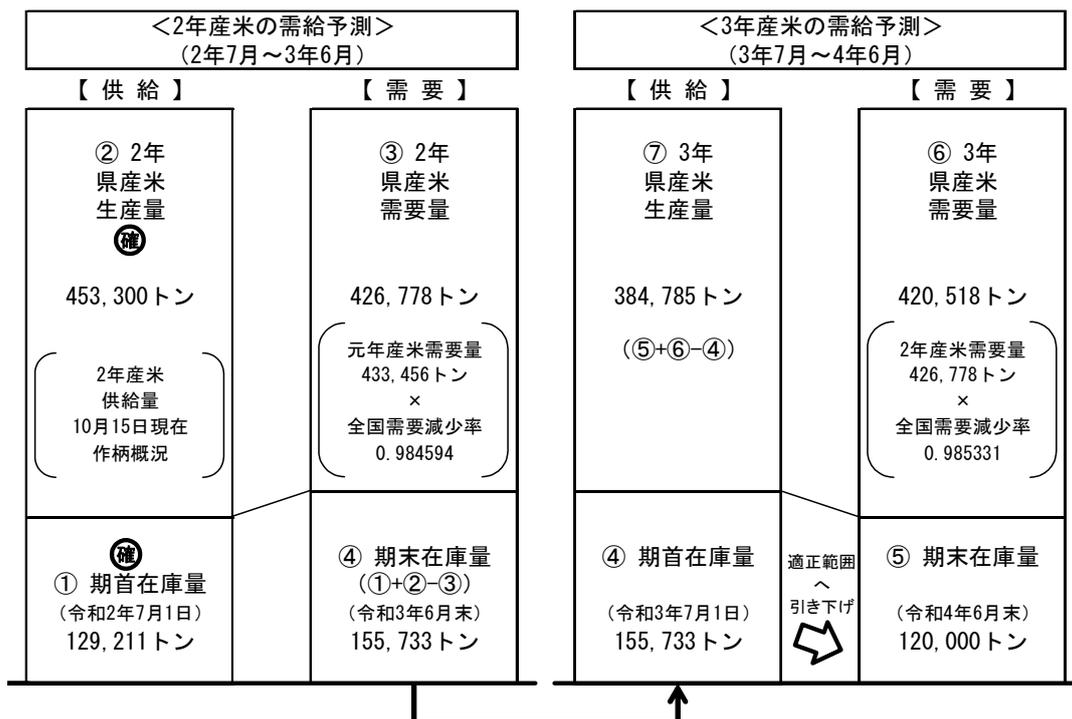
※ 元/2年の国需要見通しは元年11月基本指針

3 令和3年産米の県の「生産の目安」の算出

(1) 全国生産量と県産米シェアから算出した数値(県目安A)

①3年産米全国生産量 (2年11月基本指針)	②3年産米(県目安A) (①×県産米シェア5.6996%)	※3年産米の全国生産量については、基本指針の需給見通しより693万トンと設定された。
693万トン	394,982トン	

(2) 需給動向と適正在庫量から算出した数値（県目安B）



(3) 県目安AとBの中間値の算出

県目安A	県目安B	中間値 (A+B)÷2
394,982トン	384,785トン	389,884トン

(4) 直近の販売状況を踏まえた補正

- 2年産米については、2年6月末在庫量が13万トンと適正在庫量を1万トン超過しており、前年より1万トン以上の減産は避けられない。
- 更に、3年6月末在庫量は、県産米の需要量が一定量減少した場合、15万トンを超える見通しであり、集荷業者は2年産米を確実に売り切る必要がある。
- しかしながら、県では、需給緩和を見据えて、事前契約の締結を勧めてきたところであり、2年6月末までの事前契約率は元年産米と同様に高い水準であることから、元年産米と同程度の販売が期待できる。
- また、3年産については、主要な集荷団体が、複数年契約を締結しているほか、2年産米と同様の事前契約や販売を行うことを見込んでいる。
- こうしたことから、中間値について2年産米や3年産米の需要補正を行わず、3年産の「生産の目安」を390,000トンと設定する。

中間値	+	2年産米 需要補正	+	3年産米 需要補正	=	389,884 トン					
389,884 トン		0 トン		0 トン		389,884 トン					
						≒	390,000 トン	÷	県平均単収 575kg/10a	=	67,826 ha

令和3年産米「生産の目安」 390,000 トン

(面積換算値) (67,826 ha)

【参考】30年産米以降の「生産の目安」と面積換算値の年次推移

	平成30年産米	令和元年産米	令和2年産米	令和3年産米	令和3年－令和2年	令和3年/令和2年
全国	7,350,000 トン	7,180,000 ~ 7,260,000 トン	7,080,000 ~ 7,170,000 トン	6,930,000 ~ トン	▲ 150,000 ~ ▲ 240,000 トン	▲ 2.1 ~ ▲ 3.3 %
秋田県	408,700 トン (71,326 ha)	407,000 トン (71,030 ha)	405,000 トン (70,680 ha)	390,000 トン (67,826 ha)	▲ 15,000 トン (▲ 2,854 ha)	▲ 3.7 % (▲ 4.0 %)